

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2771602063		
法人名	特定非営利活動法人エコロジーネットワーク		
事業所名	グループホームエコ吹田		
所在地	吹田市南金田2-3-1		
自己評価作成日	令和2年4月5日	評価結果市町村受理日	令和2年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方がご自宅で生活しているような感じのアットホームな施設を目標にしています。スタッフの継続率が大変よく10年以上勤務しているスタッフが大勢います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年3月に開設された当事業所は、NPO法人エコロジーネットワークを事業母体とし、法人が掲げる理念と方針に、高齢者の介護・保健・医療の推進活動や、ホームレス・高齢者・障害者の救済・保護活動及び自然災害の予防・救済等の環境問題を取り上げ、北摂地域に高齢者向け住宅とグループホームを展開している。法人理念に沿って、当事業所の利用者はほとんどが公的扶助受給者で、行政からは空き室状態の問い合わせが頻繁にあり、地域の中の福祉施設の役割を担っている。利用者の入居年数が全体に長く、職員も5年～10年以上の勤務者が大多数で、“あ・うん”の呼吸で、家庭的な雰囲気の中で生活が営まれている。協力医院の医師や常勤の看護師による医療・健康管理に、利用者・家族は安心と信頼を寄せている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに実践している。各フロアーで話し合いをしご管理者・スタッフと共有し実践している	「利用者の安定した生活で本人・家族が安心して生活できる安価で良質なサービスの提供」の理念を、各ユニットの目につく所に掲げ、ミーティング(月1~2回)時に全体で確認しながら、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方に来ていただき手話・合唱を開催していただいている	自治会に加入し、地域行事(夏祭り・敬老会)に参加し、事業所(ホーム)主催の夏まつりには、近隣の人が飛び入りで参加する時もある。ボランティア(手芸・合唱・風船アート)の楽しみ事や、中学生の体験学習を受け入れている。毎年小学校1年生が、入学時に育てたパンジーをホームに届けてくれるなど、幅広い地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校と総合学習の参加を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し情報交換をしている	運営推進会議は、構成メンバー参加の下で隔月に開催している。会議では、ホームの取り組み内容や行事の報告を行い、参加者からの情報を得ている。会議メンバーの充実を図り、地域の薬剤師の参加を得たが、開催曜日の関係で家族の参加が難しい現状となっており、又会議での意見交換が少ない。	地域との交流を図る大事な運営推進会議の充実に向けて、家族の意見収集の方法を工夫し、地域の公正中立な認知症知見者の参加を呼びかけ、多彩な参加者からの意見を貰って双方向的な会議を目指すと共に、会議議事録の内容整備を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に数回ケア会議・グループホーム会に参加し情報交換をしている	市の高齢福祉室の担当部署の窓口や電話で、ホームの現状と取り組み内容の報告や書類(公的扶助受給者の更新手続き等)の提出を行い、アドバイスや指導を受けている。又市から入居者の受け入れの問い合わせを受けるなど、連携を取り合っている。市主催のグループホーム連絡会(2ヶ月に1回)にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みに努めている	身体拘束についての年2回の研修や、毎月ミーティング時の身体拘束適正化委員会主導の勉強会を通して、身体拘束の弊害と内容を職員は理解している。玄関と各ユニットの出入り口は施錠しているが、見守り可能な時は開錠を心がけている。ケアの中で不適切な言動があれば、職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行い普段からスタッフ間で話し合いをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同建物内に後見人制度を利用している方が居るので把握は出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日には十分に時間を取りご説明をさせていただき納得したうえでご契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご意見をうかがえるようにしている参加できなければお電話等で対応している	利用者に問いかけ・話しかけをして意見を聞き出しているが、表出できる人が少なく、動作や表情からと、長年の関わりの中で、思いやしいことを掴み取っている。家族からは訪問時や電話で聞いているが、ケアに関しての感謝が多く、要望や苦情等の意見は出ない。月1回の「エコ通信」や、利用者個々の担当者による写真添付のコメントは、好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が何でも相談できるよう管理者は努めその言葉を代表者に伝えるよう努めている。	フロア毎のミーティングや日々のケアの中で、職員の気付きや提案があり、その都度解決に向けて取り組んでいる。勘案事項については、管理者・リーダー間で随時話し合って検討している。年に1回管理者と面談を行い、職務体制や諸々の相談を聞き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告をもとに働きやすい職場環境を作るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等のパンフレットをスタッフが閲覧できるようにし、休日に研修参加する場合は出勤扱いもしくは手当を付けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等に参加している		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に十分な情報を得て入居前にご利用していた介護サービスも把握しながらご入居後の生活に生かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に情報収集を行いご入居前には面談を行いご本人ご家族の状況の把握に努めサービスにつながるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からご入居ご希望の方の情報を十分確認し本当にグループホームがっているのか他違う介護サービスがあるのではないかと十分に話し合いの場を		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしている姿勢を大切にし、喜怒哀楽を遠慮なく出せる関係を作り出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月のご様子としご本人の近況やエピソードを担当者がお手紙にして月に一度写真と一っしょに郵送しより良い関係を気付いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の取次ぎ行い疎遠にならないよう努めている。	利用者が高齢化し、介護度が高くなっている現在は、馴染みの関係が希薄になってきている。頻度の多少はあるが、宗教関係の知人や家族の訪問がある。手紙・年賀状のやり取りや電話の取次ぎを行い、馴染み関係を継続している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずリビングでの生活を重視し席替えなど行いご利用者同士円滑に生活できるよう工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてもお知らせなどを郵送し必要に応じて経過をフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での本人の思いや意向をくみ取り本人にとって必要な支援を検討する	利用者夫々の担当職員が中心となり、日々の生活の中で利用者の思いや意向の把握に努めている。夜間時の静かな時間帯にゆっくりと個別で話す人もいる。掴み取った内容は、介護記録簿や連絡帳に記入し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族から生活歴を確認し、どのような生活環境でサービス利用していたかの情報を把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等で一人一人の一日の状況を把握することに努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時ご家族ご本人の意向を聞き課題クリアできるようにカンファレンスを行いよりベストな支援を出来るよう努めている	毎月のミーティング時にカンファレンスを行い、毎月モニタリングを作成し、介護記録・連絡帳・医師の往診表とホーム常駐の看護師の所見を参考に、利用者の現状に即した計画作成を6ヶ月毎に行っている。家族に新計画書の内容を電話で説明し、郵送して確認の記名・捺印を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子などを記入し変化にいち早く対応できるよう情報を共有し話し合い計画の見直しに努めている。申し送り表や連絡帳をフルに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内でのサービスに限定されるのであくまでもご本人・ご家族の意向に寄り添い柔軟な対応に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動に参加し認知症でも楽しく暮らせるよう理解していただけるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理はもちろん緊急・専門医受診の早期発見を出来るよう情報交換を行い受診時は診療情報提供書を作成してもらい速やかに受診できるよう支援している	入居時に、かかりつけ医の変更の同意と納得を得て、全員が協力医院の往診(内科月2回・歯科週1回)を受けている。医師の往診表に利用者の身体状態を記入し、職員間で内容の把握と共有を行っている。また常勤看護師による健康管理(週5回)を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて医療的な相談を行い早期の病気の発見に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療・生活に関する情報を提供し早期退院にむけてケースワーカーと取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に確認を取りおろしをみて話し合いを行い今後についての情報交換を行っている。かかりつけ医からの情報もきちんと提供できるように努めている	入居時に「看取りについて」の文書を利用者・家族に説明し、同意書を交わしている。利用者の身体状態変化時に、医師とホームから家族に状態説明を行い、看取り体制についての対応や支援方法を話し合っている。昨年1年間で1名の看取りを行っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し応急手当、救急搬送等の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マップを目につくところに置き備蓄品等の確認を行っている。地域の消防団と連携を取っている	年2回(3・10月)、事業所での自主訓練を実施している。緊急連絡網を整備し、自治会長を通して地元の消防団へ協力要請をしている。備蓄品は水・レトルト食品や1階厨房の食材、懐中電灯を準備している。	日頃から管理者・職員間で具体的な避難誘導方法や確実な避難経路の確認を取り合うような計画を作成すると共に、全員の習熟に向けて、消防署立ち合いの訓練や夜間想定・自然災害時の訓練の実施と、地域との協力体制の構築を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時の言葉使いには十分注意している。特に排泄時は気を付けている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬する気持ちを大切に接している。トイレ・入浴時・入室時のノックと声かけに留意して、プライバシー確保に努めている。接遇研修を年1回実施し、利用者を尊重したケアへの理解と振り返りの深化に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような質問を促し、ご本人の思いや希望を聞き取れるような質問をするよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マンネリ化を避け集団での生活を損なわない範囲で希望に添えるような生活を送ってもらえるように努める		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関してはご自身で選んでいただいている。就寝時も必ずパジャマに着替えるよう促し身だしなみを整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食材にて調理行い、旬の素材を生かせるよう努めている。可能な限り利用者と一緒に行っている	栄養管理士による献立を基に、1階の厨房で業者が調理(併設の高齢者住宅の利用者と一緒の物)している。毎月1回レクレーションを兼ねて、行事食やおやつを利用者と一緒につけている。検食簿に食事全体の内容(形態・味付け・量)を記入して、改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し水分・食事量を記入し形状を変えたり味付けを工夫したりと努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア行い、週に一度歯科往診に来ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを考え時間ごとに声をかけ布パンツ使用を目指している。	日中は、オムツ使用者が1名(寝たきりの人)、リハビリパンツとパッド併用者が12名で、寝たきりの人以外は、排泄チェック表でパターンを把握して、トイレでの自然排泄を支援している。夜間は2時間毎の見守り時に、個々の状態に応じて、声かけ誘導や随時オムツ・パッド交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材の提供・乳製品の飲用・水分補給適度な運動を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は基本的に定めているがご本人の意向を重視した入浴タイムに心掛けしている	入浴は週2回を原則とし、夏期はシャワー浴を1回増やしている。日時・曜日は柔軟に対応して、清潔保持に努めている。入浴拒否の人は、タイミング・声かけの工夫、相性の良い職員との交代等で対応している。柚子湯・菖蒲湯の季節湯と、沐浴用の入浴剤を利用して入浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の電気を豆球に変えたり・温度調節に気を付けたり就寝前のあたたかい飲み物を提供したり工夫している。食後の少しのお昼寝も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カレンダーを使用し薬剤師よりお薬の説明を受けている。薬情報を提示している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味・生活習慣を把握し気分転換できるよう努めている。ラジオ体操声掛け(現在朝夕のお勤めをされている方が居る)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか外出を希望される方が居ないのでレクリエーションとしてお花見・秋の散策・初詣・夏祭り・敬老会参加と計画している	近隣の公園(桜の花見も出来る)に日常的に出かけている。事業所内のエントランスでおやつを味わったり、1階駐車場横の開けた場所で日光浴・外気浴を行い、五感刺激を受けている。車で初詣に行くが、他の遠出の機会はない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に現金をお持ちいただくことは避け買い物に行ったときは支払いはして頂くよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人からの電話取次ぎ・季節のご挨拶(年賀状・暑中見舞い)等支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアごとにレクリエーションを兼ねて季節の飾りつけを行っている。ぬり絵・貼り絵など居室には表札(ご家族の了解を得)トイレ・お風呂・キッチンと明記しわかりやすいよう工夫している	共用部分(居間や廊下・トイレ)は、専門の職員が週5回清掃して清潔である。リビング壁面には、行事写真・ぬり絵や季節の手作り貼り絵を飾り、温かい雰囲気を出している。リビングにソファを設置して、個別で寛げる空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し安楽に過ごせるよう努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より使用していた家具・アルバム等を持ってきていただいている	居室には、ベッド・カーテン・ナースコールを整備し、職員が掃除してきれいになっている。利用者はタンス・テレビ・小物・仏壇等の馴染みの物を持ちこみ、その人らしい居室となっている。家具の固定と配置を考慮して、安全で過ごしやすい動線を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下・トイレ・居室と手すりを付け床はクッション性のある材質でケガ防止に努めている。家具の配置やラグの使用も注意している		